

第5学年1組 総合的な学習の時間 学習指導案

実施期間 令和7年10～11月

指導者 高山 直也

1 単元の構想

「見つめよう、わたしたちのまち」～大人たちに最新の水俣・SDGs情報を伝えよう～

子ども終了後の姿	身の回りのSDGsに関する諸課題に気付き、それらの諸課題に主体的に関わり、自ら考え、できることを実践しようとしている。 伝え方を磨き、情報の精度を高めるために、自身の知識とスキルをアップデートし続けようとしている。		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
単元の目標	最新のSDGsや水俣の情報を、保護者に伝えるための環境フェスの準備・発表を通して、(活動) SDGsや水俣についての理解を深めるとともに、大人たちとの学ぶ機会の差に気付き、(知識及び技能) 自分たちにできることを仲間と考え、伝え方を工夫しながら、(思考力、判断力、表現力等) 学びを日常生活や地域での行動に生かすことができるようする。(学びに向かう力、人間性等)		
目標に向かうための手立て	○「3つのポイント」×「子どもが主体のICT」 【めあて】子どもたちの思いや願いと、実際の地域の現状（大人の学ぶ機会の少なさ）とのギャップに気付くことで問い合わせが生まれ、課題を自分ごととして捉え、めあてにつながるようにする。 【振り返り】ポートフォリオを活用して、現在地の確認と今後の見通しを持つことができるようになる。また、「榆木11の力」のデジタルバッジを活用することで、具体的な活動の記録から自分の成長を抽象化し、省察できるようにする。 【対話】Canvaの共同編集機能や発表練習を通して、仲間と話し合いながら、他者との考え方の違いや共通点に気付き、対話を深めることができるようになる。その際、足りない視点を補うために、Canvaコードで生成した「プレチェン（プレゼンチェックマシーンアプリ）」を活用する。		
子どもの実態27人	①水俣肥後っこ教室やSDGsに関する本を読み、SDGsや水俣に関する体系的な知識は習得できている。しかし、数名が定期的なSDGs自学の課題を出しておらず、知識理解に遅れが見られる児童もいる。 ②資料収集や整理分析の技法（グラフ化、論理的な文章作成など）について、18人の児童が活用できる基盤を持っている。（グループ編成は2:1の割合で構成）。また、ほとんどの児童がCanvaの共同編集機能やデジタルバッジの使用に慣れているなど、ICT活用の素地は高い。	①ICTを主体的に使いこなせる児童は18人程度だが、残りの児童は教師や仲間の支援が必要である。情報収集や整理分析は協働的に進められるものの、他者からの助言を吟味し、自己のプレゼン構成に反映させる分析的な思考（整理・分析）には、まだ指導が必要である。 ②水俣肥後っこ教室に向けた事前学習でのプレゼン発表では、調べた内容はよかつたが、相手意識のない発表の仕方をする児童が大半であり、聞き手に「正しく伝える」ための表現力やアウトプットの工夫に大きな課題が見られる。（小单元3の指導の重点）。	①探究活動は協力的に進められ、他者との対話を通じて考えを深めようとする児童が多い。一方で、数名の児童は自分の意見を強く主張することや、異なる意見を尊重することに困難を感じており、相互理解を深めるための支援が必要である。 ②環境に対する意識が非常に高く、「伝えるからには自分たちが率先して行動しなければならない」という情熱と意欲はほとんどの児童に共通している。しかし、数名の児童がグループで出した宿題（家で調べてくること）をしないなど、粘り強く主体的に学習に取り組む姿勢に個人差が見られる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①SDGsや水俣の最新情報について理解を深め、大人たちのSDGsや水俣に対する意識の差異（ギャップ）に気付いている。【概念的な知識】 ②プレゼンの内容を磨き上げ、聞き手に正しく伝えるために必要な情報収集や表現の技能（ICT活用を含む）を活用している。【技能】 ③学びの成果が、SDGsな社会の実現に向けた自分たちの行動や、大人達の意識向上につながる探究の成果であることに気付いている。【探究的な学習のよさの理解】	①世代間の意識のズレという現状を捉え、大人たちに伝えるべき課題（問い合わせ）を自分事として明確に設定している。【課題の設定】 ②伝える内容（水俣・SDGs情報）の精度を高めるため、適切な情報源を選択し、調べる手立て（国語で学んだことや、SDGsスタートブックなど）を生かして情報をを集めている。【情報の収集】 ③収集した情報と聞き手の特性（保護者）を考慮し、プレゼンの構成や伝え方を工夫し、仲間からの助言をもとに改善点を見出している。【整理・分析】 ④相互評価ツール（プレチェン）や参考動画を活用し、自分たちのプレゼンを効果的に修正・表現している。【まとめ・表現】	①協働する中で、他者との考え方の違いや共通点に気付き、対話を深めようとしている。【自己理解・他者理解】 ②環境フェス成功に向けて、仲間と協力し、粘り強く（榆木11の力：ねばり強く取り組む力）学習活動に意欲的に取り組んでいる。【主体性・協働性】 ③大人の意識を変えたいという情熱をもち、学んだことを日常生活や地域での行動に生かそうとしている。【将来展望・社会参画】

指導と評価の計画（28時間取り扱い 本時25/28）/榆木11の力					
課題	過程	1 地域の課題は何かを探る。（10）	2 大人たちに何をどう伝えるか考える。（14）	3 伝え方や内容を磨き上げる。（1/2）本時	4 環境フェスを開こう（2）
大人たちに最新の水俣・SDGs情報を伝えよう	課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人はなぜ SDGs を知らない？」ごみ拾い調査などをして、大人たちのポイ捨てが多く、SDGs を学ぶ機会がなかったことに気づこう。大人たちに最新の情報を伝えるという、自分たちの課題を決めよう【思①】 ○自分の住むまちの課題を見つけて、大人に伝えることを目標にできている。【思①】 / ⑧正しいのかを考える力、⑦問い合わせを見出す力 	<ul style="list-style-type: none"> ○「一番伝えたいことは？」環境フェスを成功させるために、「一番心に残る伝え方」や「伝えるべき情報」について、もう一度問い合わせを立てよう。 ○伝えたい内容や伝え方を考え、目標達成に向けて計画を立てようとしている。【思①】 / 主①】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人の心に響く発表にするには？」これまで「文字が多い」「棒読み」といった課題が見つかった。心に残り、内容を正しく伝えるには、何をどう改善すべきかを考えよう。 ○自分たちのプレゼンの現状を客観的に捉え、「伝える技術」に関する具体的な課題を設定している。【思①】 / ⑦問い合わせを見出す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「次は何をする？」アンケートの結果を振り返り（Canvaポートフォリオ）、自分たちの成長（榆木〇の力）を確認し、新たな課題を見つけよう。【主③】 ○学習の成果と過程を振り返り、自分の成長を省察し、学んだことを日常生活や地域での行動に生かそうとしている。【主③】 / ⑦問い合わせを見出す力。
	情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人のホンネを調べよう！」アンケートやインタビューの結果を確認して、本当に大人の意識が低いのか、情報を集めよう。 ○アンケートやインタビュー結果を、課題解決に必要な情報として集めている。【思②】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝える情報の専門家になろう」SDGs スタートブックや環境センター・脱炭素戦略課の方々から頂いた資料をもとに、伝えたい最新の正しい情報を集めよう。【思②】 ○学習方法を工夫して、正確な知識を増やしている。【思②】 / ⑦問い合わせを見出す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「プロのワザを学ぼう！」NHK for School のリンク集などを見て、自分たちの発表をより良くするための「伝える技術」を調べよう。【思②】 ○より良い伝え方について、参考になる情報を自分で探している。【思②】 / ⑦問い合わせを見出す力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人の反応（フィードバック）を集めよう！」保護者から回収したアンケート（発表の成果や大人の意識の変化）を情報として集めよう。【思②】 ○アンケート結果を、次なる学びのための情報として収集している。【思②】
	整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人の意識のズレ」集めた情報から、大人の SDGs や水俣に関する考え方でどんな「ズレ」があるのか、グラフなどを使って分析しよう。 ○収集したデータを見て、大人と子どもの意識の差があることに気づいている。【知①】 / 思③】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「伝わる構成を考えよう！」聞き手に伝わる順番やスライドの構成を工夫して考えよう。【思③】互いの内容が分からないように、場所を決めて練習しよう。 ○心に響くように、構成やスライドを工夫して計画を立てている。【知①】 / ①計画を立てる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「プレゼンでチェック！」ペアの班で発表し合って、「プレゼン」を使ってスピーチ・スライド・内容の3つの視点から、足りないところを助言し合おう【思③】。 ○他者からの助言をしっかり聞いて、改善点を見つけるために粘り強く分析している。【思③】 / 主②】 / ③ねばり強く取り組む力、⑩協力できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「結果はどうだったか考えよう！」集めたアンケート結果を分析し、大人の意識がどれだけ変わったかを調べよう。【思③】 ○アンケート結果を分析し、自分たちの発表が社会（大人）に与えた影響を考察している。【思③】 / 知③】
	まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「環境フェスを開こう！」この課題を解決するために、保護者（地域の大）に向けて「環境フェス」を開こう。 ○探究してきた学びが、大人たちの意識を変える学ぶ機会の創出につながると理解している。【知③】 / 主②】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「発表の練習をしてみよう！」スライドに合う話し方や、みんなで協力して発表する練習をしよう。 ○仲間と協力し、発表練習を通じて自分の考えを表現できている。【主①】 / 思④】 / ⑨協力できる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「見直しで最強のプレゼンに！」助言や動画で学んだことをもとに、聞き手の心に残るようにスライドや話し方を直して、完璧に仕上げよう。【思④】 ○（本時の評価）助言や参考動画、友達の意見をもとに、自分の担当するスライドや発表の仕方を修正している。【思・判・表】【観察・プレゼン】 	<ul style="list-style-type: none"> ○「大人たちに届けよう！」練習したプレゼンを、保護者（大人たち）に情熱をもって伝えよう【思④】。フェスで大人たちの意識がどう変わったか、アンケートで調査しよう。 ○練り上げたプレゼンを、聞き手に伝わるように工夫して発表している。【思④】 / ⑥行動する力、⑩対話する力。

2 本時の授業計画

（1）本時の目標

聞き手の心に残り、内容が正確に伝わるように、自分たちのプレゼンを助言や資料をもとに改善することができる。

（2）展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ○評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 本時の確認	○自分たちの学びの軌跡と環境フェスの目標を確認しよう	○プレゼンの良し悪しについて想起させるため、過去閲覧した動画の画像（サムネイル）を見せる。	プロジェクト クリエイター

聞き手の心に残り、内容が正確に伝わるように、自分たちのプレゼンを助言や資料をもとに改善することができる。

展開	15	2 ペアの班でプレゼンし合い、助言し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちのプレゼンに足りないものを見つけよう。 ・「～は、文字が見えにくいので、～してみてはどうかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○多角的な見方でプレゼン発表を見られるように、アプリを Canva コードで作成し、用意する。（スピーチ・スライド・内容の3種類） 	タブレット 端末 ・ Canva （プレゼン） ・ ロイロノート リンク集
	20	3 必要な動画を選択して視聴したり、対話をしたりしてプレゼンを見直す。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちが今見るべき動画を視聴しよう。 ・「今見るべき動画はこれだ！」 ○助言や参考動画をもとに、プレゼンをよりよく修正しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○参考になる NHK for School のリンク集を紹介する。 ○助言や参考動画、班の仲間の意見をもとに、自分の担当するスライドや発表の仕方を修正している。【思・判・表】【観察・プレゼン】 	タブレット 端末 ・ Canva （プレゼン） ・ ロイロノート リンク集
終末	5	4 振り返る。 (Canva)	<ul style="list-style-type: none"> ・「～で、榆木〇の力が伸びた。」 ・「もっと～をこうしたいと思ったので、今後…したい。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のチームからの助言や動画視聴から新たな問い合わせや課題を見出せるように声かけを行う。 	Canva （ポートフォリオ）

※参考資料「榆木11の力」

